✿季節の花　チューリップ
花言葉　～思いやり～

おかやま民医連

発　行
岡山県民主医療機関連合会
岡山市北区下伊福西町 1-53
岡山県民主会館３Ｆ
TEL（086）214-3911
2022年３月号　No.355
URL:http://www.okayama-min-iren.org

がんばっています！ ジャンボリー特集

開会式 ルイージ登場

約800人が集まった全国ジャンボリー（2021年11月26･27日開催）

第39回全国ジャンボリー（以下JB）がオンライン開催に決まった時に、全国実行委員として「オンラインじゃ仲良くなれない」と思いました。しかし本番後には「オンライン開催も実行委員もやって良かった！」と心から言えました。本番当日、実行委員待機用のブレイクアウトルームに入るたびに張っていた気が少し緩んで、お互いに頑張ろうと励まし合いました。

前例のないこの大企画を、初対面で直接会うこともないみんなでゼロから作り上げたことは自信になりました。県連JBでもこの経験を活かし、青年職員が楽しく学び交流できる場を作っていきます。コロナ禍で同年代の職員となかなか関われない、JBをよく知らないという青年職員の皆さん、まずは今年秋に開催予定の中四地協JBに参加してみませんか？

吉田　幸奈（林道倫精神科神経科病院）

院内のお祭りで焼き芋販売

これまで卓球大会や新入職員歓迎会等、多くの青年職員が参加して楽しめる企画を行ってきました。また財政活動として、カレーやタピオカドリンク、お汁粉などを販売しました。しかしコロナ禍で従来の活動が出来ません。そこで職員に喜んでもらえる活動が出来ないか検討し、ご当地おつまみ販売と昼食用にパン屋のパン販売を行いました。

決められた活動をすることは簡単ですが、アイデアを出し合い新しく企画することは簡単ではありません。青年職員がこのような経験を通して成長出来ることは、非常に貴重だと感じます。それは、JB活動をここまで繋いできてくださった先輩方や、協力してくださる各職場の皆さんのおかげです。これからも若者らしい視点で出来ることを考え、次年度も新しいJB活動を行いたいと思います。

武口　恵理（岡山協立病院）

全国JB参加後の発表会

コロナ禍で交流や学びの機会が減っています。JB委員として「出来ない」で終わらせずどうすれば出来るのかを考え、本来の役割である“一人ぼっちの青年をなくす”ことを念頭に活動を行ってきました。

新入職員が一人ぼっちにならないように、入社後半年の振り返りの交流会を開催しました。1時間の短い交流でしたが、新入職員からは「久しぶりに同期に会えて楽しかった」と喜んでもらえました。また2年目職員との交流会は、JBとして初めてZOOMで行いました。一人ひとりが話しやすい環境づくりに努め、「先輩職員や同期と悩みが共有出来て良かった」と好評で、JBとして大きな手ごたえを感じました。交流会は事業所間を超えた繋がりを深めることが出来たと考えます。今後も新しいことにどんどん挑戦し、JB活動を通して成長していきたいです。

岡山中央福祉会JB委員会

夏祭りの模擬店で

続くコロナ禍で「このままでは職員からJBの存在を忘れられてしまうのでは…?」という危機感から、コロナ禍でもできる活動を考え始めました。「どこにも行けないのはどの職員も同じ、各地の名産など旅行気分になれるもので財活出来ないか」という案から年末年始の休暇に合わせて日本各地のおつまみを販売しました。売れ行きは好調で、多くの職員にご協力いただけました。また、4月に開催予定の新入職員歓迎会では感染対策の面からJB委員会で使える時間が少なくなったため、例年のビンゴに代わる「短い時間でも新入職員同士が交流できるものを」と様々な案を出しています。

コロナ禍ももう3年目。良くも悪くも日常の一部と化してきたので、2022年度は方法を模索しながら交流や学習の企画を行いたいなと思います。

吉田　幸奈（林道倫精神科神経科病院）

みんなで清掃活動

コロナ渦でJB活動や原水協などの課外活動、患者さん達との交流もできない中で出来ることを検討し、敷地内の清掃・花壇の手入れ・患者さんの搬送車の洗車などを実施しました。

清掃活動・花壇の手入れはリハビリや事務・病棟看護師も交えて、週ごとに交代し実施しました。仕事終わりの数十分だけの活動ですが、リハビリで散歩をする患者さん達から「いつも綺麗にされている」と気付いていただけて、嬉しい言葉をもらうことができました。洗車や清掃活動など普段は忙しくてなかなか積極的に行えないことですが、コロナ禍だからこそしっかり取り組めたと思っています。

これからもJB活動を通して、スタッフ間の繋がり・患者さんや地域の方との繋がりが増えたらと思います。

コープリハビリテーション病院JB委員会

点　滴

新型コロナの対応を始めて丸2年が過ぎようとしている。今までSARSウイルス、新型インフルエンザと世界中を騒がしたが、私自身の中ではそんなに大事にならずいつの間にか終わっていたので今回も春がきて暖かくなれば数か月で収束するだろうと思っていた▼しかし、中国の武漢で確認されたウイルスは、季節や気候に関係なく国境を越えて世界中で広がり、1日に最大400万人累計で4億を超える人が感染し、今も増え続けている。感染者が一人も出ていない国はなく、日本からの渡航や日本人の入国を制限している国は191か国にもなっている▼新型コロナに感染しない究極の方法は人と人とが接触しないことであり、このことは人と人、国と国がどんなに争っても結局はどこかでつながっており無関係ではいられないという明らかな事実である。だからこそ世界中が一致団結し、力を合わせて、地球上からこの新型コロナを根絶していくことが必要である▼しかし国や民族の紛争は絶えず、世界の軍事費は増加し続けている。平和憲法を持つ日本も例外ではなく、軍事費は2021年度には6兆1160億円と初の6兆を突破。昨秋の補正予算で7738億円も追加された▼一方で新型コロナ関連の特例点数、各種補助金が廃止され、お金も人の支援もないまま、私達はその最前線にいる。先日の総会で確認された総会方針をおおいに学び、全国の仲間と力を合わせて、頑張っていこう。（K）

前は登山、今は仕事と読書が趣味

三俣蓮華岳を登山中（2011年）

昔の趣味は登山でしたが、今は仕事と読書というところです。手術はアートといわれることがありますが、確かにそういうことだと思います。手術室の中では外科医は職人なので、趣味と仕事の境界は無いという感じです。手術室を出るとお医者さんに戻ります。ここで皆さんに紹介したい本を3冊挙げておきます。

一冊目、「コーチングの神様が教える、できる人の法則」マーシャル・ゴールドスミス著。ジャック・ウェルチを教えたエグゼクティブ・コーチがリーダーの能力を飛躍的に高めるコーチング法を公開した本です。

二冊目、「人を動かす」D・カーネギー著。日本だけでも累計発行部数500万部を超えるロングセラーで、読まれた方も多いと思います。

三冊目は、「患者トラブルを解決する技術」尾内康彦著。大阪府保険医協会事務局次長で、なにわのトラブルバスターと呼ばれた筆者の経験談です。

これら3冊は何度も繰り返して読んでいる愛読本です。特にトラブルバスターの経験事例は今日から役立つ内容も多いと思います。

山本　明広
（水島協同病院院長）

おすすめの3冊の本

国家試験、送り出し
～ソワニエ看護専門学校～

2月13日の看護師国家試験に向けて12日に壮行会を開催する予定でしたが、コロナ感染拡大で中止になりました。3年生は体調管理をしながら看護師国家試験に向かって一人ひとりが一生懸命に頑張ってきました。国試対策の補講が感染拡大防止のためハイブリッド授業となり、時には焦りと不安に押しつぶされそうになりながら涙が出ることもありました。最後まで諦めることなく必死に勉強してきた3年生を誇りに思います。そんな3年生を見てきた在校生たちは、将来の自分たちの姿を想像しながら、応援メッセージで3年生に元気と勇気を送りました。

坪井　智恵
（ソワニエ看護専門学校3年担当）

全員合格を願い教員で作りました

志望校合格応援、受験生訪問

県連医学対では1月23日、これまで高校生企画に参加してくれた55人の受験生宅を訪問しました。受験生には応援グッズと病院・県連担当者の手書きメッセージをプレゼント。親御さんとともに迎えられた訪問先では、「これまでありがとうございました。ゴールまであと少し、頑張ります」と受験生の元気な声も聞け、これまでの辛く苦しい受験生活を思うあまり、担当者も思わず涙腺が緩みました。

コロナ禍で医療職の過酷さがクローズアップされますが、夢実現に向けてラストスパートの受験生達の合格を応援し、将来の民医連病院を支える医師育てに繋げていきたいと思います。

國塩　聖和
（県連事務局）

1/23受験生宅訪問前に、川崎医科大学前で宣伝行動

核兵器なくす歩みをすすめよう
核兵器禁止条約発効1周年岡山アクション

核兵器禁止条約は1月22日に発効1周年を迎えました。県原水協の呼びかけた岡山アクションに全体443名、民医連職員70名が参加。SNS投稿し「日本は条約に参加を」などメッセージを発信しました。水島協同病院は21日に病院前でスタンディングを行い、大きな横断幕やプラスターでアピールしました。

大坂　圭子
（県連事務局）